

衛生看護科 バレー部 全国大会 初出場 決める

第58回県高校定時制通信制
総合大会兼第34回全国大会
予選バレーボール大会が6
月10日、県立名南工業高校
で開催された。

働きながら学び、その上
で部活動を行うことは大変
で、これまで活動できなかつ
たバレーボール部が、この
大会に昨年度から久々にエ
ントリー。

昨年度は結果を出せなかつ
たが、復活2年目での快挙
となった!

豊橋	市立中央	春日井	大府	弥富	弥富	弥富
2	2	2	2	2	2	2
25-11	25-20	18-25	25-20	25-13	25-13	25-13
0	0	1	1	0	0	0
春日井	弥富	弥富	弥富	弥富	弥富	弥富

この日の選手達は違っていた。
どこの高校よりも早く集合し、
気合が入っていた。「全国へ行
こうね」を合い言葉に練習を重
ねてきた。臨床実習中の4年生
は思うように練習できず困って
いたところ、バスケ部の協
力により体育館での練習が出来
た。又、担任の先生の呼びかけ
で1年生部員の確保が出来、9
人で試合に臨むことが出来た。

いざ出陣

初戦の春日井高校戦。簡単に
試合は終わるものと予想してい
たが、主将伊藤の絶不調。スコ
ア以上に重苦しい雰囲気の流れ
た。

次は全国大会常連校の刈谷東
高校戦。次々と応援に駆けつけ
て下さった方々の前での試合。
しかし伊藤の調子は復活せず1
セットを落とす。

「絶対に全国大会へ行こう」
「みんなを連れて行こう」とい
う言葉も虚しく響く。が、徐々
にサーブやアタックが決まり出
し、全体が声を出して上手くま
わるようになってきた。

この日、急遽リベロ登録した
野村・福本の絶妙なレシーブやパ
スがチームを支え続けた結果、
2セット目を取る。こうなると
弥富ペース。相手のミス誘い
出し、何も分らないままコー
トに入った1年生もようやく慣
れてサーブポイントを重ね、2・
3セットを連取し、決勝戦進出。
決勝戦は、優勝候補の豊橋高
校を破った市立中央高校。この
日は非常に勢いがあり、手強い
相手であったが、それ以上に弥
富高校は勢いがあつた。サーブ・
レシーブ・アタックが上手くかみ
合い全国大会初出場の栄冠を勝
ち取った。全員の勝利であった
ことは言うまでもない。



杉原千畝記念館 見学ツアー

『弥富高校PTA文化サー
クルささゆり』企画の杉原
千畝記念館見学ツアーが6
月9日(土)、16人の参加で
実施された。



5年前の夏、サマーセミ
ナーでの講座『杉原千畝氏』
を受講した。この時に『記
念館』に行ってみたくと思っ
たが、1人ではちよつと現
地までは足を運べない、し
かし行きたい気持ちを押しさ
え切れず立ち上げた企画。

今年で4回目。当日は、
曇り空ながら梅雨の晴れ
間の1日となった。「人
道の丘公園」は、いつも



高貴で気品ある「ささゆり」

杉原幸子夫人に直接お目
にかかる機会を得、講演を
拝聴した者として、「杉原
千畝」という名前と貴い無
償の行為を伝えていくこと
は人生の使命だと。そのた

のやさしい風情で迎えてく
れた。サークルの名の由来
となった、「ささゆり」に
も再会できた。内に強さを
秘めた花で薄いピンクの高
貴で気品ある姿は清楚で可
憐、『命のビザ』を想わせ
る凛とした風情を湛えて咲
いていた。

参加者の感想

館長さんの話の中に、
「二度と同じ事を繰り返さ
ないように、……」、「戦
争は絶対になくならない」
という言葉がありました。
人間の根本にある「差別」
という無意識の行動が他人
を傷つけ結果的には、自分
達を苦しめることになるの
ですが、それを無くすには
やはり今の教育を変えてい
くことから始めないといけ
ないのかなという思いがし
から始める

今の教育を変えていくこと から始める

「今の日本は第二次世界大
戦中のドイツと似ている」、
「二度と同じ事を繰り返さ
ないように、……」、「戦
争は絶対になくならない」
という言葉がありました。
人間の根本にある「差別」
という無意識の行動が他人
を傷つけ結果的には、自分
達を苦しめることになるの
ですが、それを無くすには
やはり今の教育を変えてい
くことから始めないといけ
ないのかなという思いがし
から始める

決断した事に責任を

館長さんのお話の「人間
とはこんなにも残酷になれ
るものか」、「群集心理の
怖さ愚かさ現代にも当て
はまる」という事を自分自
身の肝に銘じて、間違つた
決断をしないようにしよう、
そして、自分が決断した事
に責任を持てるように心が
けていこうと思います。

《父母》

「人道とは何か？」

初代校長 後藤新平
私たちの身の回りでも、
いじめに目を閉じて見ぬふ
りをする人々、政治に無関
心な人々、若者、そんな人
間が増えていきます。もう一
度、自分自身も「人道とは
何か？」と考えさせられた
一日でした。
《生徒》

《市民》

一人ひとりが意思を持ち積
極的に参加すること、意識
改革が必要だと思います。

自治三訣
人のお世話にならぬよう
人のお世話をするよう
そして報いを求めぬよう
大正14年4月7日
日露協会学校(ハルピン学
院)の開校にあたって